

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在レベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	医療機関が隣接した環境ではなく、医療設備も十分でない為、重度化した場合又看取りの対応には限界がある。	ご家族の意向を尊重しながら、そして主治医との連携を十分に取り、可能な限りホームで生活して頂ける様に取り組んで行く。	主治医又医療提携している近くの総合病院との関わりを日頃から持ち、連絡を密にする事で連携が十分に取れるよう努めていく。そして可能な限りホームでの生活が長く続けて頂ける様支援を行っていく。	6ヶ月
2	15	職員はコミュニケーションの大切さを理解し、信頼関係を築ける様取り組んでいる。今後もそれを忘れることの無いよう、継続していく必要がある。	信頼関係がさらに深まることで、より良い、質の高い介護が提供できるようになる。	「挨拶に始まり挨拶で終わる」「笑顔を忘れない」を徹底していく。そして個々の入居者様との時間を大切にすることで、信頼関係を築いていく。	6ヶ月
3			個々の職員が自分の役割を認識し、入居者様の立場で考え行動する施設に成長する。	毎月、組織内で自己覚知の管理者研修を開催している。自分を知ることで周りを見る視界も広がり相手の立場でものを見れるようになる。管理者が成長することで職員もともに成長していくので研修を継続していく。	12ヶ月
4				3ヶ月毎に『接遇委員会』を組織全体で開催している。ホームに接遇委員が任命されており接遇委員を中心に目標を決めている。「スマイルトレーニング」「十大接客用語」「運営理念に理解と唱和」「立場に応じた言葉遣いの唱和」等を繰り返し行い、目標がどのくらい達成できたか委員会で報告し、次のステップへと実施している。委員会の中で、職員の意見や提案が運営に反映できるので継続していく。	12ヶ月
5			コミュニケーションが活性化し、総合理解のもとひとつの目標に向かって結集できる施設づくりを目指す。		

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。